

赤坂警察署からのお知らせ

あなたの家族が**危ない!**

お父さん、お母さん、
おじいちゃん、おばあちゃんへ
今すぐ教えてあげてください。

必ず元の番号へかけなおす

絶対、カードはわたさない

こんな電話は「振り込め詐欺」。留守番電話にセット

●振り込め詐欺の犯人は、電話の相手方が留守番電話に設定されていると、その電話を打ち切る傾向があります。
●在家中にも常に留守番電話に設定し、着信時の電話番号に心当たりがない場合には、電話に出ないようにしましょう。

「振り込まない、手渡さないで110番」
●お問い合わせ／赤坂警察署 電話：03-3475-0110(内線2612)

赤坂消防署からのお知らせ

「地震 その時10のポイント」について
見直しました!

「身の安全を図る」ことの必要性 … 都民のみなさまへのアンケート調査などの結果から、地震発生時に最も重要となる身の安全を図ることよりも、火の元を確認するなどの揺れが収まってからとるべき行動が優先されていることがわかりました。また、緊急地震速報の普及により、揺れを感じる前に身を守る行動をとる必要があることから、まずは「身の安全を図る」ことをみなさんが広く理解し地震の際に適切に行動していたできるよう見直しました。

東日本大震災後に行った都内の住宅や事業所における家具などの転倒に関する調査によると、特に高層階では、転倒・落下に加え、「移動」が多く発生しました。今後心配される首都圏での地震においては、新たに長周期地震動による高層階での被害が予想されることからその注意点を追いかしました。

地震時の行動 (地震だ! まず身の安全)

●揺れを感じたり、緊急地震速報を受けた時は、身の安全を最優先に行動する。
●丈夫なテーブルの下や、物が「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」空間に身を寄せ、揺れがおさまるまで様子を見る。

確実な避難行動の必要性 … 東日本大震災では、津波により多くの貴重な命が失われる一方、適切な避難行動によって津波の難から逃れた人もいました。地震に伴い発生する大規模火災・津波などからの安全な避難について新たに追加しました。

地震後の行動 (火災や津波 確かな避難)

●地域に大規模な火災の危険がせまり、身の危険を感じたら、一時集合場所や避難場所に避難する。
●沿岸部では、大きな揺れを感じたり、津波警報が出たら高台などの安全な場所に素早く避難する。

※地震その時10のポイントの全部は赤坂消防署ホームページまたは東京消防庁ホームページをご覧ください。

東京消防庁ホームページ(新着情報)
http://www.tfd.metro.tokyo.jp
赤坂消防署ホームページ
http://www.tfd.metro.tokyo.jp/hp-akasaka
●お問い合わせ／赤坂消防署 電話：03-3478-0119

あの人この人 地域のこと

町会・自治会に加入しよう!

●お問い合わせ／協働推進課 協働推進係 電話：03-5413-7272

地域で活躍している町会・自治会活動を紹介しす

赤坂 都会のオアシス 霊南坂町会

かつての霊南坂町会は、日本近代建築史上に残る辰野金吾設計の霊南坂教会やA・レイモンドの私邸、そして伝統的木造寺院建築や中国風の大倉集庫館、戦前の西洋館等が建ち並び、建築ファンにとっては実に魅力的な町でした。また、宗教的趣のある異色の町会でもあります。町会活動は、宗教、宗派、宗派が異なり統一した行事を行うことは難しいのですがまちの雰囲気や大切にしている心はひとつです。昨年の大震災では、周辺の外国人ビジネスマンが寺の境内に多数避難してきた経験から、地域に対して町会ができることは何なのかを会員で話し合ったそうです。「春には陽泉寺の境内に見事な桜が咲きますよ。」と村瀬町会長。都会の真ん中に残されたエアーポケットのようなオアシス。ちょっと歩いてみてはいかがでしょうか?

●面積 962.8万km²(日本の約25倍)
●人口 3億875万人
●首都 ワシントンD.C.
●言語 英語

米国外務省
〒107-8420 東京都港区赤坂1-10-5
http://japanese.japan.usembassy.gov/

歴史にも日本と結びつきの強い米国。しかし、広大な国土であるが故に、本場の姿が伝わっていないのではないのでしょうか? 今回は米国外務省を訪問し、おすすめの観光スポットや食文化についてお聞きしました。

おすすめの観光スポット

日本からの観光客が多い都市として、ニューヨーク、ワシントン、サンフランシスコ、ハワイなどが有名ですが、そのほかに、米国外務省の歴史の逸話や記念館の多いフィラデルフィア(ペンシルベニア州)、世界で最も乗降客の多い空港のあるアトランタ(ジョージア州)、気候がよく環境にもやさしいシアトル(ワシントン州)、ブルーリッジ山脈を背後に控えたアッシュビル(ノースカロライナ州)などもお勧めのところです。

また、米国の精神の一端を表している国立公園もぜひ訪れてほしいとのこと。ヨセミテ国立公園、グランドキャニオン国立公園、イエローストーン国立公園など400近い国立公園があり、国家の遺産として大切に保護されています。

霊南坂町会 村瀬 正慶 会長 談

赤坂 赤坂田町三・四・五丁目町会

…伝統行事を通じてつながりを守り続ける

外堀通りとみすじ通りに囲まれ、赤坂通りをまたぐ南北に長い町域を持つ赤坂田町三・四・五丁目町会。かつて一流の花柳界として繁盛したこの地は、立ち並ぶ料亭やお屋敷を相手に植木屋、鍛冶屋、畳屋、建具屋など多くの職人が住む「粋」な雰囲気を持つまちでもありました。昭和30年代以降大企業の進出により商業ビルが立ち並ぶようになり、花柳界の衰退も相まって古くからの住民が相次いで移転。まちは大きく変わっていききました。現在は町会会員の大半が勤め人で、昔のようにまち全体が知り合いだったような深いつながりはなくなってしまいましたが、毎年9月の氷川祭では町会が一体となって賑わいを見せます。人と人とのつながりを深め、まちがかつての「粋」な姿を取り戻す大切な行事です。

赤坂田町三・四・五丁目町会は、町会員の減少と、会員の多くが勤め人で居住者が少ないことから、町会行事の実施が非常に困難な状況です。しかし、毎年9月の氷川祭では、町会神輿を出すことで賑わいを見せています。昨年の氷川祭では、町会の半ばも新調し、一層の盛り上がりを見せました。氷川祭は、町会の数少ない行事の中で、会員同士ののみならず、他の町会・自治会の方とも交流を深めることのできる貴重な機会です。今後も、このような機会を大切に、町会の内外問わず、人と人とのつながりを守っていききたいと思っています。

赤坂田町三・四・五丁目町会 山田 千代樹 会長 談

赤坂・青山にある大使館・観光局 [アメリカ合衆国編]

The United States of America

アメリカ合衆国

●面積 962.8万km²(日本の約25倍)
●人口 3億875万人
●首都 ワシントンD.C.
●言語 英語

米国外務省
〒107-8420 東京都港区赤坂1-10-5
http://japanese.japan.usembassy.gov/

歴史にも日本と結びつきの強い米国。しかし、広大な国土であるが故に、本場の姿が伝わっていないのではないのでしょうか? 今回は米国外務省を訪問し、おすすめの観光スポットや食文化についてお聞きしました。

おすすめの観光スポット

日本からの観光客が多い都市として、ニューヨーク、ワシントン、サンフランシスコ、ハワイなどが有名ですが、そのほかに、米国外務省の歴史の逸話や記念館の多いフィラデルフィア(ペンシルベニア州)、世界で最も乗降客の多い空港のあるアトランタ(ジョージア州)、気候がよく環境にもやさしいシアトル(ワシントン州)、ブルーリッジ山脈を背後に控えたアッシュビル(ノースカロライナ州)などもお勧めのところです。

また、米国の精神の一端を表している国立公園もぜひ訪れてほしいとのこと。ヨセミテ国立公園、グランドキャニオン国立公園、イエローストーン国立公園など400近い国立公園があり、国家の遺産として大切に保護されています。

ヨセミテ国立公園

多民族国家ならではの多様な食文化

米国は、多民族国家らしく食生活もそれぞれに個性があります。トウモロコシなどの穀物をはじめ、肉、海産物、果物、野菜などの食材が豊富で、これらを使った、イタリア風、フランス風、英国風、ヒスパニック風など様々な料理文化が混在しています。日本の寿司料理も今ではアメリカ全土に浸透しているとのこと。そして、この多様性の原点となっているのが、実は先住民が築き上げた健康的な食文化。現在、米国では環境に適応したヘルシーでエコロジカルな食材を使った料理が見直されているそうです。

米国の情報は…
観光情報 Discover America
http://www.discoveramerica.com/jp/
農産物・食料・食文化 myfood http://www.myfood.jp/
資料室を一般公開しています http://usinfo.jp/
留学相談を受け付けています
(資料室と留学相談は要予約 電話:3224-5293)

●「コミュニティ・フレンドシップ・デー」へお越しください
毎年8月、演奏、手品、パレード、売店などイベントを開催しています
詳しくは米国外務省で 電話：3224-5000(代表)

大使館からのお知らせ

ルース大使のツイッターをフォローしてください! @AmbassadorRoos

青山霊園眺望
～人と歴史～

第11回
ジョセフ・ヒコ
(1837年～1897年)
外人墓地 南1種イ四側8

青山霊園の外人墓地に漢字で「浄世夫彦」と刻まれた墓碑があります。これは「新聞の父」と言われているジョセフ・ヒコの墓です。ヒコは日本名を「浜田彦蔵」といい、アメリカに帰化した初めての日本人です。1864年(元治元年、慶応元年説もあります)に日本で初めて、日本語による新聞「新聞」を横浜で発行したことで知られています。新聞は好評でしたが、代金を払ってまで購読しようとする人はまだ少なく、2～3か月で休刊となりました。翌年、「海外新聞」と改題し発行された新聞は様々な事情により26号で廃刊となったものの、正しい情報を得る大切さを日本人にも知って欲しいと願ったその想いは、現代に繋がっています。横浜中華街の居館の跡には日本における新聞誕生の地の碑が建てられています。

ヒコは1837年(天保8年)にいまの兵庫県播磨郡に生まれました。1850年(嘉永3年)、母の死後、船乗りであった義父と船で江戸へ向かい、義父と別れた帰路の遠く灘で暴風にあいました。約50日の漂流の末、アメリカの商船に救われ、サンフランシスコへ着いたのは翌年14歳の時でした。日本が開国前のことでした。ここでアメリカの父ともいえる税関徴収官のサンダースと会ったことが、ヒコの人生を大きく変えます。ペリーが来航した年である1853年(嘉永6年)、ワシントンで当時の大統領ピエーズと会える機会を得、アメリカ大統領と握手をした初めての日本人になりました。翌年17歳の時に洗礼を受け、洗礼名のジョセフ・ヒコを使い始めます。1858年(安政5年)にアメリカに帰化、来日を試みますが、幕末の情勢は穏やかではなく、日本に上陸することなくアメリカへ戻ります。

1859年(安政6年)には、神奈川のアメリカ領事館通訳として来日を果たし、すでに南北戦争が始まっていた1862年(文久2年)の3度目の渡米の際には「ランカー」と謁見、握手をしたただ一人の日本人となりました。また、最初のサンフランシスコ到着後に撮影されたと思われるヒコの写真は、日本人を写した最古のダゲレオタイプ*という技法の写真であることが、2007年に判明しています。

その後もアメリカと日本の架け橋となり、深く日本の近代化への歴史に関わり続けたヒコの人生はとてここまでは語りつくせません。ヒコは様々なことにおいて「初めての日本人」でした。

東京へ移り住んだのは15歳になった1888年(明治21年)日本人としての永住を希望していましたが、その願いは叶わず、1897年(明治30年)12月に心臓病のため60歳で亡くなりました。日本に帰化法ができたのはヒコが亡くなった2年後の1899年(明治32年)でした。

※銀メッキをした銅板などを感光材料として使う、世界最初の実用的写真技法

赤坂親善大使が誕生しました!!

赤坂の街を盛り上げるために全国から「マスコットキャラクター(赤坂親善大使)のデザイン」を募集(平成23年9月～11月)したところ、664点の作品が集まりました。

北海道から九州までの全国各地からの応募作品の中から、ブルメ・ファッション・ショッピングに興味のある好奇心旺盛な女の子「アユミン」、赤坂の平和を守り、赤坂の楽しさを伝える男の子「アカサカメン」、赤坂散策が趣味で、赤坂の歴史を調べて独自の散歩マップを作成中の「アカオくん」の3体を、赤坂の魅力伝える「赤坂親善大使」として決定しました。3体には、今後、赤坂の魅力を全国に発信してもらいます。

赤坂親善大使 総選挙 開催中!

この3体の「リーダー」を決める総選挙。赤坂地区総合支所のほか、赤坂の街の店舗やFacebook上に開設する特設ページで投票可能。選挙期間中、赤坂の街頭で3体がPR活動を行います。選挙結果は、3月25日の赤坂・青山地域交流会にて発表します。詳しくは公式ホームページを!

http://www.akachara.jp

3月18日まで

平成24年度 港区民交通傷害保険に加入しませんか

港区民交通傷害保険は、少額の保険料で加入でき、交通事故でケガをしたときに、入院や通院治療日数と通院治療期間に応じて保険金をお支払いする保険です。

また、保険料を300円上乗せして自転車賠償責任プランを付加することにより、自転車等の加害事故による損害賠償金等も補償されます。

詳しくは各総合支所で配布するパンフレットまたは区のホームページをご覧ください。

●加入対象者
保険開始時点(平成24年4月1日)で港区に住所のある方

●保険期間
平成24年4月1日午前0時から平成25年3月31日午後12時までの1年間

●申込受付場所
各総合支所協働推進課協働推進係または区内金融機関(銀行、信用金庫、信用組合、ゆうちょ銀行・郵便局)

●加入申込期間
2月1日(水)～3月30日(金) ※金融機関は3月23日(金)まで

●お問い合わせ 協働推進課協働推進係 電話：03-5413-7272

●区ホームページ http://www.city.minato.tokyo.jp

道路や公園などの美化ボランティア活動募集
(港区アドプト・プログラム)

区では、道路・公園などの清掃や、花壇の管理などを行っていただける方を募集しています。活動する皆さんには、清掃用具の貸与や、草花の支給などの支援を行います。

「公園で花を植えてみたい」「地域をもっときれいにしたい」という皆さんの参加をお待ちしています。

赤坂・青山地区では、現在5団体で活動しています。詳しくは、下記までお問い合わせください。

●対象
区内在住・在勤・在学の人または団体

●主な活動内容
・道路(区道)・公園等の清掃、花壇管理、植栽管理
・公園等の安全パトロール など

●区の支援
・清掃用具、花壇管理用具、腕章の貸与
・草花の支給
・保険への加入 など

●問い合わせ
赤坂地区総合支所協働推進課土木係 電話：03-5413-7015

大和ライフネクストのみなさん

清掃活動のようす

編集後記

赤坂青山地域に住む編集委員自らが地域の魅力を発信する地域情報誌「MYタウン赤坂青山」今年度もあとという間に1年が終了しました。これまでの活動を振り返ってひとこと。

●系数/「あかさかあやま」の魅力は無限大です。取材を通じて、たくさんの新しい発見と人との出会いがありました。楽しい1年でした。また、失敗をしてしまったことを反省し、次回に活かしたいと思います。●編集/編集を担当して一番悩んだのは、本当に読者にこの情報誌を読んでもらえるか気が配りました。ギャラリーの取材を通じて、ギャラリーの経営者に「読んでますよ」と言われ、とても励みになりました。●内野/編集委員として2年半、多くの貴重な人々との繋がりが増え、地域との繋がりがより深くなった事を実感しています。これからも、皆様に楽しんで頂けます情報誌を作りたいと思っています。●鈴木/故郷田子さんに憧れて青山に越した昨春から参加しています。編集委員の老若男女が同じテーブルで議論したり、取材先での素敵な女性との先陣の方との企画を担っています。横浜中華街を訪れたところ、狭い歩道にある碑の周りに人々が無造作に何台もの自転車が置かれていました。写真を撮るために自転車を除けながら、ヒコも見たであろう青い空を仰ぎました。●田中/この小冊子のキャッチコピーは「地域の人がつくる」です。年齢も立場も様々な素人たちが月に1～2回集まっての編集で、話の完成度はプロに及ぶ訳がありませんが、素人目線ならではの良さ(?)もあってと自負しております。●高木/「文字を書くこと、わがまちがますます好きになりました。まちを歩き回るのはそこに生かされている私たち。そんな実感が湧いてくる情報誌編集に携わることができて感謝しています。貴方も是非この場合へ。●中村/私の住んでいる赤坂2丁目には、毎週木曜日に2丁目の六本木通り周辺を清掃する奇様な会社があります。暑いときも寒いときも丁寧に掃除されます。あの人たちは好きでやっているのだ、などという人もいます。私は掃除をしている人々を見るたびに感謝の気持ちでいっぱいです。●馬場/この1年、委員の方たちにはご負担をかけたことが、心掛けたこと「木を見て森を見ず」にならないことでした。理想的な行動だけでなく、現実から現実から乖離した「防災論」になりかねないからです。現場を見、現実を知ることを心がけました。●宮内/赤坂青山のまちを知りたい情報誌編集委員会に参加しました。取材やメンバーの方々との交流が楽しい1年でした。●村上/編集委員3回目。大震災を前に無力でありながらも、「袖すりあう人」にふだんから声をかけること、小さなことの積み重ねが一番大きな力を感じました。●百瀬/編集メンバーとして参加し2年が経ちました。新しい方々との出会い、「赤坂・青山の新しい発見、地域情報誌」がなければできない取材ができ、とても充実した時間を過ごすことができました。●吉田/世界で1、2位の100年近く続く長寿・高齢化社会を実現した日本、100年に1度といわれる未曾有の大災害、温暖化といわれているのに、この冬の厳しさ、大雪。地球の自然はまだまだミステリー。常に備えて、この地球での一期一会を楽しもう。

赤坂地区総合支所からのお知らせ

赤坂・青山地区タウンミーティングメンバー募集

赤坂地区総合支所では、区民協働による赤坂・青山のまちづくりを目指して、一緒に考え、行動する区民参画組織「赤坂・青山地区タウンミーティング」を設置しています。平成24年度は下記4分科会のメンバーを募集します。

①地域情報の発信・交流分科会 ②赤坂青山歴史伝承分科会 ③いきがいくづくり推進分科会 ④安全安心まちづくり分科会

区民協働による赤坂・青山のまちづくり

●対象者 赤坂・青山地区に在住、在勤、在学者、または、赤坂青山地区のために活動したい人

●募集する分科会

①地域情報の発信・交流分科会
赤坂・青山の魅力を編集委員自ら取材・編集し、地域情報誌「MYタウン赤坂・青山」を発行します。身近で魅力ある情報の発信を目指します。

②赤坂青山歴史伝承分科会
常に時代の先端の街として繁栄してきた赤坂・青山。地域の歴史を自ら学び、街の記憶を次世代へ伝承するため、地域内外へ情報発信します。

③いきがいくづくり推進分科会
地域の高齢者など、生き生きと暮らせるよう、赤坂・青山ならではの新たなふれあい、いきがいくづくりを検討します。

④安全安心まちづくり分科会
地域の有効な防災の仕組みづくりの検討とともに、赤坂地区版計画に計上された地域事業の計画進行管理を行います。
※各分科会の活動は原則、平日の夜間、月1、2回程度を予定しています。

●活動期間 平成24年4月～平成25年3月

●人数 各分科会とも15名程度

●お申し込み 住所、氏名、電話番号(連絡先)、在住在勤在学等の別、希望分科会を書いて、郵送、持参またはファックスで3月30日(金)までにお申し込みください。

〒107-8516 赤坂地区総合支所協働推進課地区政策担当
電話：03-5413-7013 FAX：03-5413-2019

赤坂・青山地域交流会を開催します

赤坂・青山地域の地域団体の1年間の活動を、写真やインタビュにより紹介します。

また、新たに3体誕生した赤坂のマスコットキャラクター「赤坂親善大使」のリーダーを決める総選挙の結果や、災害発生時の赤坂・青山地域における帰宅困難者対策などについても報告します。

どなたでも参加できます。

●日時 3月25日(日)午後2時から

●場所 赤坂区民センター第一会議室

●費用 無料

●担当 赤坂地区総合支所協働推進課協働推進係
電話：03-5413-7272

※詳細は港区のホームページをご覧ください
http://www.city.minato.tokyo.jp

赤坂・青山地域交流会を開催します

赤坂・青山地域の地域団体の1年間の活動を、写真やインタビュにより紹介します。

また、新たに3体誕生した赤坂のマスコットキャラクター「赤坂親善大使」のリーダーを決める総選挙の結果や、災害発生時の赤坂・青山地域における帰宅困難者対策などについても報告します。

どなたでも参加できます。

●日時 3月25日(日)午後2時から

●場所 赤坂区民センター第一会議室

●費用 無料

●担当 赤坂地区総合支所協働推進課協働推進係
電話：03-5413-7272

※詳細は港区のホームページをご覧ください
http://www.city.minato.tokyo.jp

赤坂青山地域情報誌 第19号

編集：港区赤坂・青山地区タウンミーティング地域情報の発信・交流分科会
発行：港区赤坂地区総合支所協働推進課 発行部数：22,000部

この情報誌についてのご意見等ございましたら、ご一報ください。
赤坂地区総合支所協働推進課
電話：03-5413-7013 FAX：03-5413-2019

再生紙を使用しています

「運より準備」。これは、三陸沖地震を何度も経験した地域に伝わる「津波いろはかるた」の最後の「ん」で詠まれているフレーズです。東日本大震災発生から早1年。あの日、赤坂青山を貫く青山通りには、帰宅困難者があふれて混乱していました。また、今回の震災によって、地域の絆の大切さを痛感するなど、多くの課題が見えてきました。こうした事実を改めて見つめ、この街で働く人や住んでいる人に取材を進めてみると、1年の間に反省や検証を経て、様々な動きがあることがわかってきました。なかでも、企業や住民に限らず、日頃からの「絆」やコミュニケーションの大切さを改めて実感しました。

あの日のことを風化させることなく、よりよい対策を生むために、自分と地域との関わり方や、生き方そのものについて、真剣に考える方がきているようです。

今号では、赤坂青山の特性からみた防災のありかたについて、まとめてみました。

赤坂青山・防災のPOINT

●帰宅困難者対策は「とどまる」が原則へ

●地域のバックアップが求められる「災害時要援護者」

●日頃からの備蓄と共助の体制づくりが急務の高層マンション

↓

地域の連携と区の支援が大切

港区のこの1年の主な取り組み

東日本大震災を受けて、港区、そして赤坂青山地区で行われた防災に関する様々な取り組みのうち、主なものをピックアップしてみました。

帰宅困難者対策は「とどまる」が原則へ

帰宅困難者対策は、東日本大震災の発生で首都圏が混乱したことを契機に、「帰宅の支援」から「一斉帰宅の抑制」に転換しつつあります。青山地区防災協議会に参加する事業者や青山通りに面した立地の事業者などに話をお聞きしながら震災当日の様子を改めて振り返ると、私たちの住む地域の減災には、企業の協力が不可欠なことを痛感しています。

帰宅困難者の多くは一時的な滞留者

震災当日、青山通りにはたくさんの帰宅困難者があふれかえりましたが、何百人もの社員を抱える大企業では、普段から防災マニュアルや防災訓練を行っており、社内にとどまるよう指示したところが多かったようです。

たとえば、大手企業では早々に災害特別本部を立ち上げ、火災が発生しない限り、社内に留まよう指示。社外にいる従業員の状況は、阪神淡路大震災後に普及した社員安否確認システムで確認を行いました。それではなぜこれほどの帰宅困難者が発生したかといえば、赤坂青山地区には、ファッションや飲食店などが多く立地し、そこを利用する一時的な滞留者が普段から多いことが挙げられます。また、防災マニュアルと備蓄をしていない企業の社員が帰宅を試みたというの理由のひとつです。家族のもとに早く帰りたいというごく当たり前の感情もあったのではないのでしょうか。

いくつかの企業がビルの一部を開放

震災当日、通りにあふれた滞留者を受け入れるため、いくつかの企業では、ビルの一部を開放していました。

企業によっては、ビル内の一部を開放し、大型スクリーンでの情報提供と、社員用に備蓄していた食糧や水、毛布を提供しました。あるビルでは、青山通り沿いに立地しているため、通行人などにトイレを提供しました。特に、妊婦や青山通りで立ち生住していたバスに乗っていた多数の小学生たちも受け入れました。ある金融機関では、銀行窓口の待合スペースにいた待機者で、固定電話やテレビによる情報、食糧や水などを提供しました。しかしながら、セキュリティ上、帰宅困難者の受け入れが困難な企業もあったようです。

自転車の利便性、注目集めるも…

青山通り沿いのある自転車販売店では、震災発生後、公共交通機関が止まり、帰宅困難者たちが自転車を買い求めてやってきました。閉店時間を延長して対応。店長によると、「早く帰るためにと、価格はほとんど意に介さずの傾向だった」とのことです。1日の平均売売数の約10倍以上だったそうです。現在は、都心で「とどまる」ことが原則になっていますので注意が必要です。

自転車



一時的な滞留者は いったいどこへ避難すればよいのか…

進む大企業の改善と課題

多くの企業では、普段から防災マニュアルの策定や年数回の防災訓練、社員安否確認システムの構築を実施していたことが分かりました。それでも、さまざまな課題があったようです。

震災後、避難所に指定されている公共施設の状況を確認し、千人以上の社員を抱える企業として、一層の自助努力の重要性を認識したところもありました。

そのほか、取材に協力していただいた多数の企業が、改善点として、備蓄物資の量や備蓄場所の検証、防災マニュアルの見直し、地域の防災組織との連携を強化する必要性などを挙げました。

テナントビル・中小企業の対策が急務

中小企業では、マニュアルと備蓄が不十分なところがあります。スペースにも余裕がなく、いざというとき、滞留者の受け入れが困難な場合も考えられます。そのため、会社・事業所は食糧、水など3日分を備蓄し、社員を社内に留ませ、帰宅困難者を出さないようにすることがまずは大切です。

一方、テナントビルに入っている会社では、自社内でのマニュアルを持っているところもありますが、ビル側でテナントとの協議の上、マニュアルを作っているケースも。ビル側とテナントは、日頃から十分なコミュニケーションをとり、ビル全体で方針を共有し、ビル内に「とどまる」ことを徹底するとともに、備蓄場所などについても情報を共有しておく必要があると思われます。

ビルのエレベーター内に備えられた非常用BOX

中には、食糧、飲料、携帯トイレ、救助用笛、毛布、ライト、救急セット、ラジオなどが搭載されています。非常時にエレベーターに閉じ込められた際に利用できます。

区でも体制強化を検討中！企業間連携のための動き

赤坂青山地区の防災を考えるためには、企業と住民の連携、企業と企業の連携が大切です。そしてその体制づくりに区は大きな役割を果たします。

赤坂青山地域内のほぼ中心に位置する乃木坂駅とその周辺事業所では、平成21年度から勉強会、シミュレーションによる訓練や、警察、消防、区と一体となった(仮称)地域共助本部のルールづくりを重ねています。この「乃木坂ワーキンググループ」の活動を他の6駅周辺にも広げようとしていた矢先に東日本大震災が起こったのです。震災以降、参加企業も増え、より活発な取り組みが期待されます。

1月には、新たに、「(仮称)青山通りワーキンググループ」を設置。「青山一丁目駅」「外苑前駅」周辺地域に立地する事業者により、赤坂青山地区区内で最も多くの滞留者・帰宅困難者が見込まれる青山通りのあり方について、今後具体的に検討を重ねる予定です。「共助」の強化のために、企業との協定締結も準備中です。具体的には、備蓄品設置スペース、滞留者・帰宅困難者を受け入れるスペース、滞留者誘導などに必要なマンパワーの提供などがあげられています。

帰宅困難者にならないためには「とどまる」ことが原則。特に、家族との連絡や避難には車両を使用してはいけません。緊急通行車両(消防車や救急車、レスキュー車)などの速やかな通行のため、交通規制が実施されます。

地域のバックアップが求められる「災害時要援護者」

高齢者の割合が多いことは、赤坂・青山地区の特徴として以前から認識され、高齢者が安全に生活できるためのサービス、災害時の支援のあり方などが地区の大きな課題でした。

しかし、「高齢者」といっても年齢、健康状態、生活環境によって災害時の課題点は変わってきます。全ての該当者を網羅しつつ個々のニーズに配慮することは難しいことですが、今回の震災時の経験を生かし、赤坂・青山地区の高齢者対策のより良いあり方を探る必要があると感じました。

高齢化が進む赤坂青山地区

平成23年1月1日時点で赤坂青山地区の人口30,391人のうち、65歳以上の高齢者は6,871人で22.6%を占めます。5つの総合支所のうち赤坂地区がもっとも高齢者人口率が高く、唯一20%を超えています。さらに、赤坂三丁目、赤坂五丁目、北青山三丁目においては高齢者人口率が30%以上と特に高くなっています。

22.6% 19.7% 18.8% 17.3% 11.2%

赤坂 芝 高 麻 芝

赤坂 芝 高 麻 芝

港区の高齢化人口率

震災当日のある出来事

高齢者単身世帯の見回りなど、高齢者と直に接する立場にあった民生委員の方によると、震災当日、転倒した家具が額に当たり、かなりの出血を伴う裂傷を負った高齢者単身世帯があったとのこと。マンションの隣人が震災当日の夜異常に付き付き民生委員に連絡、かけつけた2名と隣人が救急車を手配し、民生委員が病院搬送に同行したそうです。幸い命に別状はありませんでしたが、隣人の連絡がなければ発見が遅れた可能性もあります。

また、倒れた家具を戻すことができなかった自宅に戻るのは危険と判断され、ホテルの手配や食事の準備も民生委員が行いました。家具の修

次世代のマンパワーへの期待(いも煮会と絆)

毎年12月の第1土曜日に赤坂中学校にて、青少年対策赤坂地区委員会が中心となった「防災訓練いも煮会」が開かれています。この「防災訓練いも煮会」は、美味しいいも煮を料理して食べるだけでなく、災害時、地域の中学校は避難所となることから、中学生の行動訓練にもなっています。主催の青少年対策赤坂地区委員会や赤坂中学校だけでなく、中之町幼稚園、赤坂小学校、赤坂総合支所、日赤奉仕団、赤坂警察署、赤坂消防署、各校・園のPTAという多彩な人材のプロジェクトであり、地震車、体験車、消火訓練、AEDなど大がかりな防災訓練を通して、たくさんの方と顔見知りになることにより、地域の絆ができることも、この会がもつ意味のひとつです。均一に具材に火が通るように、野菜の切る大きさを揃え、鍋に入れる順番を工夫する、アルファ米に熱湯を入れて温かいご飯を作り、パックに詰める、

いも煮汁を給仕する—それらを丁寧に中学生に教え、受け継がれることも大切です。

20年以上この会を続けているもうひとつの意味は「続ける」ということ。「中学生は3年間、この会に参加し、経験することができると、実際の災害時に、生徒たちが地域のリーダーとなり、マンパワーを発揮してほしい。若い力が地域の方々を引っ張っていくことこそ地域防災」と、地域の若い力に対する思いや期待があります。

今回の「防災訓練いも煮会」は、あいにくの大雨と寒さのため、本番さながらの緊張感ある訓練となりましたが、中学生の明るくおどらなか、しかも、きびきびした態度に参加者は元気づけられました。人は地域で育てられ、人との絆によって困難を乗り越えていくのではないかと思います。ぜひ一度、熱気あふれる地域の絆「防災訓練いも煮会」にご参加ください。

●取材協力：赤坂中学校・伊藤校長、青少年対策赤坂地区委員会会長・山野さん、同副会長・塩谷さん

各所で避難所運営訓練を実施

避難所運営訓練とは、地域防災協議会(赤坂地区防災ネットワーク、青山地区防災協議会)の皆さんによる避難所の開設準備及び避難所の受入れを行う実働訓練です。災害時に地域住民中心の避難所運営を行うため、避難所ごとに策定した「避難所運営マニュアル」に基づいて、今年度はこれまでに赤坂小学校、青南小学校、青山中学校で訓練を実施しました。

被災地復興支援フェアを開催

10月、被災地復興支援フェアが赤坂サカスで開催。岩手県大船渡市、福島県いわき市・会津坂下町・喜多方市、群馬県沼田市、茨城県つくば市・笠間市、千葉県県民孫子市の参加により、被災・風評被害に苦しむ地域の品が販売されました。

日頃からの備蓄と共助の体制づくりが急務の高層マンション

港区では、高層マンションは6階以上で100戸以上の建物と定義されており、都心という立地条件から見て、多くの高層マンションがあります。しかし「集合住宅」という特性から、日頃の災害対策が不十分である場合が多いようです。マンションの高層階では、低層階や戸建住宅とは異なった対応が必要であり、管理組合やマンション管理会社を巻き込んだ取り組みが求められます。

想像よりも大きなマンションの揺れ

高層マンションやビルでは、いわゆる「長周期地震動」により、高層階で低層階より大きな揺れになることがあります。また、地震によりエレベーターが停止すると、管理会社の対応が追いつかず、復旧までかなりの時間を要します。また、電気で水をポンプアップしていますが、電気の復旧まで約1週間必要だともいわれています。その間、階段を使って、水や食糧を運んだり、けが人をおろすのは非常に困難です。つまり、高層マンションでは、高層マンションの特性に応じた防災対策も必要になります。

家具の転倒防止

地震の揺れが大きくなる高層階では、低層階や戸建住宅よりもさらに家具の転倒防止に気をつけておく必要があるといえます。区では家具転倒防止器具が無償配布されていますので、ぜひ活用してみてください。

高層マンションでは7日分の備蓄を！

ライフラインの復旧に時間がかかるため、高層マンションにお住いの方には、ミネラルウォーターなど7日分の備蓄が推奨されています。また、備蓄では食糧に目がいきがちですが、災害時に非常に困るのは、トイレです。簡易トイレも必要に応じて用意しましょう。固定剤で固めて捨てられるものもあります。

水(1人1日3L)

簡易トイレ

これからの港区の防災の大切な道しるべ 港区防災対策基本条例のあらまし

この条例の果たすべき役割はいろいろとありますが、今回の特集に関連して、次の点が特に注目されます。

自助、共助、公助の定義を明確化

自らのことは自らが守る「自助」、地域において互いに助け合う「共助」、行政が区民等の安全を確保する「公助」について明示しています。

災害時の一斉帰宅の抑制と食糧等の備蓄を規定

従業員や顧客も含め一斉帰宅の抑制をする責務があること、そして食糧等の備蓄の必要性を明示しています。

高層住宅の震災対策を規定

防災計画の策定や救出・避難等に必要な用具の備蓄の必要性を明示。区は必要な支援を行い、

災害時要援護者対策を規定

高齢者、障害者など災害時に特別な支援が必要な方々のための施策推進を明示。区は警察署、消防署、町会、自治会、民生委員などに協力を求めます。

いずれにせよ、区、区民および事業者の相互の協力が必要なおに変わりはありません。全文については、港区ホームページをご参照ください。http://www.city.minato.tokyo.jp/

3.11の東日本大震災以降、この情報誌の編集委員で、帰宅困難者対策のセミナーや危機管理の公開講座に出席したり、区の防災課や企業、地域の民生委員、地区委員の方々にも取材し、さまざまな学習や情報収集をしてきました。限られた紙面ではそれらを十分ににお伝えできませんが、取材にご協力いただいた方々にはこの場を借りてお礼を申し上げます。



重たいものを持って階段は上れません…